



# さん が

第一一四号

令和 四年

西暦 二〇二二年

孟蘭盆 七月号

曹洞宗 東運寺

京都市伏見区淀新町六一八一

TEL 〇七五-六三一-二二七二

FAX 六三二-五七二五

E-MAIL [sanga@tounji.net](mailto:sanga@tounji.net)

ロシアによるウクライナ侵攻が始まって、はや三ヶ月が過ぎようとしています。いまだに多くの人命が失われ、街が破壊されていることに、心を痛めるばかりです。

曹洞宗も、総長による談話を公式に発表しています。

そこでは、

すべての生きとし生けるものにとって、命は等しく尊く、かけがえのないものであります。国の威厳や国益、主義主張など、いかなる理由によっても「殺してもよい命」や「殺されてもかまわない命」は存在しません。また、誰一人として平穏な生活が奪われ、家や財産を失い、居住する場所を追われることも許容されません。

曹洞宗は「自も他も傷つけない」という立場を貫き、戦争の遂行や暴力・破壊への誘因に結びつく思想や社会行動に同意しないという「非戦」の立場を

堅持します。そして、過去に体験した戦争の悲惨さを繰り返さないための智慧と、いのちの尊さを自覚しあう慈悲によって、世界平和の実現が叶うと信じています。

と語られています。

(全文は曹洞宗公式サイトでご覧頂けます)

平和とは、おそらく「こうなればゴール」というものではありません。私たちがいつも平和でありたいと願いつづけるところに、現れてくるものなのでしょう。油断すると消えてしまう、儂いものなのかも知れません。

平和をおびやかすもののひとつに、憎しみがあります。憎しみは自分をおしばむものです。そんな憎しみに、自分のエネルギーを奪われてしまわないように、毎日、平和への願いを、忘れないでいたいと思います。



さる五月六日、コロナ禍による二度の延期をへて、守口市のお寺でおこなわれた晋山式において、住職の子侑亮（ゆうりょう）が「首座（しゅそ）」という大役をつとめました。本人は、まだ大本山永平寺で修行中の身であり、とくべつに外出を許可されてこの日に臨みました。首座は、晋山式をおこなう新任職に代わって教えを説くという、重要な役目を負うものです。曹洞宗では、それによって、お坊さんの階段を一步昇ります。

法要の中では、つねに自分が先頭で動き出さなければならなかったり、大きな声で禅問答を交わしたりと、覚えることが、たくさんあります。緊張する舞台でありますが、まわりの人たちにも助けられ、ぶじに終わることができました。

とはいえ、まだまだこれから、学んでいくことばかりです。これからの成長を、どうか見守ってやって下さい。



横にして掲げているのは、「竹篋（しっぺい）」という法具です。これを持って禅問答に挑むのは、一生に一度だけです。

## 七月八日「お盆法要」について

午前十時より、小人数の和尚さま方とともに、いつもの施食会法要のみをおつとめする予定です。

当日は薬師堂の扉も開けます。ぜひお参り下さい。

## 「お盆の棚経」について

昨年とおなじ形で、お参りする予定です。

棚経にお伺いしている方々には、このお便りに「棚経のご案内」を同封しています。ご確認のほど、どうかよろしくお願いいたします。

なお、淀近辺の方には同封しておりませんが、いつもの日程でお伺いいたします。ご不明な場合は、遠慮なくお問い合わせください。

## 「団参」について

今年は十一月十六日（水）に、日帰りの日程で行うことになりました。

行き先は検討中です。決まりましたら、あらためてご案内いたします。楽しみにお待ちしております。



↑ ホームページ



↑ お寺の日常